

① 日本国特許庁 (JP)

② 特許出願公告

③ 特 許 公 報 (B 2)

昭 60 - 47634

④ Int. Cl. 1

識別記号

庁内整理番号

⑤ 公告 昭和60年(1985)10月22日

G 06 K

9/00

Z - 8320 - 5B

Z - 8320 - 5B

発明の数 1 (全4頁)

⑥ 発明の名称 読取データ訂正装置

⑦ 特 願 昭55-99234

⑧ 公 開 昭57-23179

⑨ 出 願 昭55(1980)7月18日

⑩ 昭57(1982)7月6日

⑪ 発 明 者 今 敏 則 横浜市港北区綱島東四丁目3番1号 松下通信工業株式会社

⑫ 出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

⑬ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

⑭ 審 査 官 河 端 祐 爾

1

① 特許請求の範囲

1 帳票に記載された文字を読取る帳票読取機構と、初期値設定のために入力されたシーケンス番号と、上記帳票読取機構で帳票読取り時にカウントアップして上記帳票にプリントするナンバーリング機構と、上記帳票読取機構で読取られた文字番号と共に上記カウントアップされたシーケンス番号を付加して外部装置へデータ伝送するデータ伝送装置と、訂正すべきものとして上記外部装置から上記データ伝送装置を介して返送された上記シーケンス番号と読取られた文字番号とを表示するディスプレイと、このディスプレイに表示された上記文字番号を訂正するキーボードとを具備する読取データ訂正装置。

発明の詳細な説明

本発明は読取データ訂正装置に関するものである。

具体的にはたとえば、読取るべく帳票の読取り順番とデータ伝送装置より送信または受信する伝送データとの順番を明確に対応づけると共に、読取データの送信機能に加えて更に一度送信したデータを再び選択的に受信できる受信機能を設けて、読取データを伝送装置に接続された外部の計算機装置でチェックできるようにし、読取データの高信頼化と高品質データの入力時間の短絡化を図るものである。

以下に本発明の実施例とともに説明する。第1図は全体の構成を示すもので、帳票読取機構1、ナンバーリング機構2、データ伝送装置3、キー

2

ボード装置4、ディスプレイ装置5、フロッピーディスク装置6及びそれらのコントロールを行なう制御装置7より構成されている。

帳票読取りに際して、あらかじめキーボード装置4、ディスプレイ装置5により帳票の読取り順番を表わすシーケンス番号の初期値設定を行なう。なおこの初期値設定はコントロール帳票をあらかじめ読取ることでも可能である。まず目的の入力帳票を一枚、帳票読取機構1にて読取るとナンバーリング機構2で初期値設定されたシーケンス番号が帳票にプリントされる。次に二枚目の帳票を同様に読取ると、カウントアップされたシーケンス番号が同様にプリントされる。以下、次々と帳票を読取る毎にカウントアップされたシーケンス番号が帳票にプリントされ、読取る順番を明示することができる。

一方、読取られたデータはデータ伝送装置3にて送信されるが、この時に帳票にプリントしたシーケンス番号を読取データに付加して送信しておく。

このようにして伝送されたデータはセンターコンピュータ装置に入力され、データのマッチング等の必要な処理を行ない、その結果、入力エラーと判定されるデータについてデータ伝送装置を通じて文字読取装置へ返送する。この時読取データに付加されたシーケンス番号も同時に返送しておく。文字読取装置ではこれらの受信データをディスプレイ装置5に表示し、操作者へ入力エラ

(2)

特公 昭 60-47634

3

一のあつたことを知らせるが、この時に入力エラーのあつた帳票のシーケンシス番号も同時にディスプレイ装置5に表示する。したがって操作者はその表示から該当のシーケンシス番号を知り、既に読取り済みの帳票群から指定のシーケンシス番号のプリントされた帳票を見つけ出し、入力エラーの修正等を容易に行うことが可能となる。

第2図は第1図に示した実施例のフローチャートを示すものである。開示操作11が行なわれるとシーケンシス番号初期値設定ブロック12においてナンバリングするシーケンシス番号の初期値をあらかじめ入力する。入力されたシーケンシス番号は帳票読取り毎にカウントアップされてナンバリングされ、同時に送信データにも付加される。帳票読取り制御ブロック13では主として帳票に記入された文字を認識する。ナンバリング制御ブロック14ではシーケンシス番号初期値設定ブロック12で入力されたシーケンシス番号のカウントアップと管理及び帳票へのプリントの制御を行なう。データ書き込み制御ブロック15では帳票読取り制御ブロックで認識した読取データとナンバリング制御ブロック14でプリントされたシーケンシス番号を合成しフロッピーディスクや磁気テープ等の記録媒体へ書込む。

第3図はナンバリングされた帳票読取りの例を示す。ここでaは読取るべき文字列、それに対してbはナンバリングされたシーケンシス番号である。このシーケンシス番号bの位置は第3図では帳票の下辺に寄っているが、ナンバリング機構によつては帳票の上辺、及び中段、または第3図の例と逆向きにプリントすることもできる。

上述したブロック13～15の動作を繰返して目的の帳票を全て読み終えると、ブロック16で示す読取終了となる。その後、データ伝送を開始するが、データ送信制御ブロック17ではデータ書き込み制御ブロック15で書込んだ媒体からデータを読み出し、送信データとして帳票読取データとシーケンシス番号を合成して送信開始する。

第4図はこのようにして送信される送信データの例を示す。すなわち送信データの先頭にシーケンシス番号c、その後に読取データdを配置しているが、もちろんこの逆の配置もあり得る。また読取データの途中にシーケンシス番号を挿入することもある。また送信データの形式は、受信の時

にも同じく利用される。

このようにして全ての読取データを送信してまうと、次にデータ受信制御ブロック18が動作する。データ送信制御ブロックで送信したデータのうち、センターコンピュータで論理チェックエラーとなつたものやその他の他文字読取装置に返送する必要があるデータが第4図の形式で受信される。文字読取装置ではそれら受信データをディスプレイ装置に表示し操作者にデータの修正を求める。

第5図は受信データの表示例で、シーケンシス番号の表示e、受信データ(読取データ)の表示f、帳票に対応した行番号の表示g、及びメッセージの表示hを行なっている。このようなディスプレイの表示より操作者はシーケンシス番号をキーとして、読取り済みの帳票の束からナンバリングされた同じ番号を探し出し、受信データと目的の帳票とを照合することができる。

このように、全ての受信データを修正し終ると、再び修正データを送信し、再び制御ブロック17を利用する。以上のブロック17、18を繰返して帳票読取データを正しく伝送し、ブロック19で示すデータ伝送終了となる。20は装置の金動作終了ブロックである。

このような装置においては次のような効果がある。

(1) 従来、文字読取装置に設けられていたデータブロックでは不都合な分野を、伝送装置を迂回した外部の計算機装置を利用することにより簡便代りさせて行なうことができる。

(2) 従来の文字読取装置では数字に関する論理チェックは比較的容易に行なえるが、英字や記号、カナ文字等に関する論理チェックは不可能であつた。しかし本実施例は伝送装置にセンターコンピュータを接続すると、同コンピュータ装置で、読取文字とマスキングファイルとの比較照合が可能となるので、英字、記号、カナ文字等の論理チェックができることになる。

(3) データ伝送装置を用いて、読取データの送信及びセンターコンピュータで論理チェックエラーとなつたデータ等の受信を行なうので、結果として短時間で大量の高品質データの入力が可能となる。

上記実施例より明らかなように本発明によれば

(3)

特公 昭 60-47634

5

6

読取機能を高信頼化するとともに入力時間の短縮化を図ることができ、実用的効果が大きい。

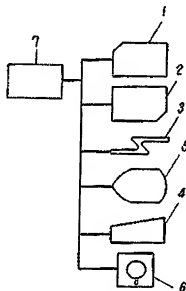
図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における読取データ訂正装置の構成図、第2図はその制御フローチャート、第3図はナンバーリングされた読取票を

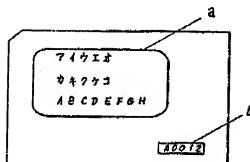
示す図、第4図は送信および受信データの内容を示す図、第5図は受信データの表示を示す図である。

1……帳票読取機構、2……ナンバーリング機構、3……データ伝送装置、5

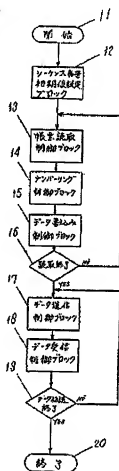
第1図



第3図



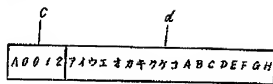
第2図



(4)

特公 昭 60-47634

第 4 図



第 5 図

